

令和 6 年 4 月 2 4 日(水)

1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0

朝霞市立朝霞第一小学校

2 階 なでしこ会議室

朝霞市立朝霞第一小学校 令和 6 年度第 1 回学校運営協議会

次第

- 1 学校長あいさつ
- 2 自己紹介
- 3 委員長あいさつ
- 4 令和 6 年度の学校経営について
- 5 情報交換
- 6 その他

年間の予定

第 1 回 4 月 24 日 (水) 本日

第 2 回 6 月 8 日 (土)

第 3 回 1 1 月 29 日 (金)

第 4 回 2 月 28 日 (金)

第 5 回 3 月 19 日 (火)

職員研修について

8 月 2 2 日 (木) か 8 月 2 3 日 (金)
のどちらかに、本校教職員と懇談をして
いただく時間を設ける予定です。日
程が決まり次第、ご連絡いたします。

令和6年度（2024年度）朝霞市立朝霞第一小学校 学校経営方針

朝霞第一小学校
校長 金子 二郎

＝令和5年度学校評価から＝

○保護者アンケートにおけるA＋Bの割合の上位3項目と下位3項目

4	授業参加や保護者会の回数や内容は適切である	…93.7%
1	学校は、お子様が楽しく生活できる所になっている	…92.8%
2	学校は、お子様が仲良く生活できる所になっている	…92.8%
6	学校は、お子様の学習や生活などについて相談できる所になっている	…73.3%
11	学校は、いじめ防止に向けた取組を行っている	…75.6%
3	学校は、教育方針や学校生活の様子を伝えるよう努めている	…79.6%

児童は概して素直で前向きであり、例えば上級生の立派な振舞いに接して「自分もそうありたい」と願い、理想の実現に向け努力できる児童が多い。このような児童にとって本校は望ましい集団生活を送ることのできる場となっており、保護者からも一定の理解を得ることができていると考えられる。他方、不登校児童の増加等、個別の課題も顕在化しつつある。社会状況に鑑みると、子供をめぐる様々な課題を解決するためには学校の自助努力だけでは足りないことは自明である。前例踏襲に終始することなく積極的に情報発信することで協力を呼び掛け、得られる情報や意見を誠実に受け止めて「学校は何が求められているのか」を真剣に考え、児童のニーズを的確にとらえた上で、これまで以上に組織的で計画的、継続的な教育活動を展開する必要がある。

【学校教育目標】

考える子（知）

- 相手の立場に立って話を聴き、意欲的・主体的に学習に取り組む子に
- よく考えてから自分の責任で判断し、誠実に行動する子に
- 生きがいについて自分なりに考えることができる子に

やさしい子（徳）

- 自分も相手も大切にし、思いやりを行動に表すことができる子に
- しっかりと挨拶をすることができ、場をわきまえた丁寧な言葉遣いができる子に
- 相手を否定することなく、お互いの「自分らしさ」を認め合うことができる子に

たくましい子（体）

- 困難に直面しても簡単にあきらめることなく、ねばり強く努力する子に
- 基本的な生活習慣が身に付いている子に
- 自分の目標に向かって心身ともに鍛えることができる子に

【学校経営方針】

一小に関わるものすべてがより良く生きることができるように

○児童はもちろん、教職員も保護者も地域にとっても「居場所」になる学校に

- (1) 児童にとって…「生きる力」が身に付く
- (2) 教職員にとって…子供たちだけでなく教職員のウェルビーイングも向上させたい（後述）
- (3) 保護者にとって…子育ての喜びも苦労も分かち合うことができる
- (4) 地域にとって…自己実現や社会貢献をとおしてコミュニティが成立する

◎関わるものすべてで「将来この街を支える子供たちをみんなで育む」という共通目標

＝コミュニティ・スクールのゴールイメージ…「わたしたちの膝折学校」

【目指す学校像】

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

1. 活気があふれる学校

- (1) 「誰かがやってくれるだろう」と他者に依存するのではなく、それぞれができることに誠実に取り組むことで、全体が質的に向上する学校。お互いをよく知り合い、その上で「自分は何ができるか」を自分事として考え実行する「当事者意識」を、児童や教職員、家庭や地域が持つ。
- (2) 一人一人の努力を、お互いに認め合う。周囲の努力を見て「私もみんなのためにもっとがんばりたい」と思えるような集団に。（例えば教職員にとって居心地のよい快適な職場となれば、事故の発生を防ぐこともできる。）
- (3) 子供にとっては、「できた」「わかった」「楽しい」と実感すればするほど、より主体的に取り組むようになり、一人一人に真の学力や体力が身に付く。

2. 心が潤う学校

- (1) キーワードは「利他」。

一人一人の生活は千差万別。外からは見えない重荷を背負っていることも少なくない。がんばり方は異なっても、それぞれの立場で自分のパフォーマンスを向上させることで、組織力は確実に向上する。そこから「自分が誰かのために役に立つことができている」と実感することで、より強く他者に対し貢献できる。

- (2) 「教えるプロ」としての教師のプライド＋「本願他力」。

令和5年度の実践を振り返り、単に臨時休業となった令和2年3月2日以前に戻すのではなく、コロナ禍で得たノウハウも十二分に活用した教育活動を展開する。特に昨年度から再開しているICT機器を活用した学習指導と、地域の人材や外部の教育力を積極的に援用した「一小ならではの」教育活動の充実を図る。さらに学習指導に限らず、学校におけるその他の業務についても外部との連携を模索する。誰かの力を借りることで教育の質が向上する。「教師でなくともできる」なら、助けを借りることで「教師しかできない」ことに一層力を注ぐことができる。

(3) 子供同士、大人同士、子供と大人の関係性を重視する。

大人の世界の「排除の理論」を学習する子供は「いじめ」についての感覚が麻痺するのではないかという懸念。「多数派」が果たさなければならない「責任」についての共有。

→「弱い敵と共存する」(オルテガ・イ・ガセット「大衆の反逆」)

一人一人の児童生徒が「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようにする。

(4) それぞれの「らしさ」を大切にする。

「角を矯めて牛を殺す」育て方ではなく、一人一人の「らしさ」を自信につなげるコーチングが効果的。多様性を認め合う生き方ができる子供たちを育てることが求められている。

3. 児童だけでなく、関わるものすべてにとっての居場所となる「私たちの膝折学校」

(1) 明治7年開学以来、数えきれない多くの先達の弛まぬ努力により培われてきた「膝折学校」の文化(歴史、伝統)を再認識し継承する。

(2) 地域の実態を踏まえた課題の解決を目指しつつ、「働き方改革」、少子高齢化、高度情報化、国際化、SDGsの視点を踏まえた環境問題、「貧困と格差」といった、多くの市民が当事者となる社会全体に関わる問題に向き合い、長期的な視野に立って「学校『は』何ができるか」あるいは「学校『へ』何ができるか」を、老若男女を問わず考え、「オール小」で地域から発信する学校を目指す。

(3) 上記の視点から地域学校協働活動の充実を図る。保護者のみならず地域に対しても広く協力を要請する。例えば児童の学習を直接指導するだけでなく、登下校時の児童の見守り活動や保護者の子育てに係る相談活動など、「これなら私にもできる」といった観点で、一人でも多くの大人が児童の健やかな育みに携わることができるよう、日常的に多くの協力者が子供と関わることでできる環境整備を進める。自治会やNPO法人等、既存の組織にも積極的に応援を要請する。

(4) 世代交代があっても、膝折学校としてのメンタリティを継承することができるよう、学校運営協議会が中心的な役割を担う新たな学校づくりを目指す。

<目指す教師像>

教育のプロとしての使命感をもち、児童に誠実に向き合い、これまでの人生から体得した「自分らしさ」という長所を生かして児童理解や授業に情熱を注ぐ教師。

○熱意、創意、誠意をもって指導にあたる教師

○心をこめて一人一人の児童に寄り添い、きめ細かな指導ができる教師…「師弟同行」

○自分を磨くことに努め、魅力が感じられる人間を目指す教師

○独りよがりになることなく、社会の要請に真摯に耳を傾け、時代の流れに柔軟に対応できる教師

○保護者との人間関係を豊かに築き、共に子供を育てられる教師

<目指す児童像>

○意欲的、主体的に学習し、自分なりの考えを持つことができる児童

○自分から挨拶したり、分け隔てなく誰に対してもやさしい言葉がけをしたりできる児童

○向上心を持ち、目標に向かって粘り強く努力し続けることができる児童

○相手を否定することなく、互いの個性を認め合える児童

○心をひとつにして、皆で物事に取り組むことができる児童

《令和6年度の重点》

1. 信頼の構築…「先生」としての矜持の共有と力量向上に向けた不断の努力

○信頼される教師としての指導力の発揮

- ・日々の授業と生徒指導・児童理解
- ・コンプライアンス意識の向上（「見られている」感から）と信頼されるための情報発信の工夫
- ・迅速で誠意ある緊急対応

○信頼される危機管理体制の構築

- ・朝霞市教育委員会や首長部局との緊密な連携による教職員事故防止策の充実
- ・怪我の防止、保健指導の充実、「生命の安全教育」の実施
- ・施設設備の危険個所の早期発見と即時対応

○信頼される教師の挨拶

- ・自分からの挨拶（児童も、教師も）、地域と積極的に関わることのできる教師

2. 学習指導の充実と学力の向上

○モジュール授業による基礎・基本の確実な定着…学力向上に向けた新たな指導法の工夫・改善

○ICTの一層の活用…研究の成果共有の継続。業務改善の視点にも立ったICT機器活用の推進。

○学習規律の徹底…学校というフォーマルな集団において実現する学びの基礎

○個別最適な学びと共同的な学び(探求的な学習、体験活動、多様な他者との協働)の一体的な充実

○全国学調、県学調の結果分析に基づいた学力向上プランの一層の活用と効果的な教育課程の展開

○音楽、理科、英語における教科経営力の向上…担任としての授業力の向上

○児童のプログラミング的思考の育成・充実

○学校応援団、外部指導者、ゲストティーチャーの積極的な導入

○授業研究の充実…「アーカイブの活用」を通じた成果の共有

3. 体力の向上

○限られた指導時間の中で最大限の体力向上を実現するための共通理解・共通指導の徹底

○「わかった」「できた」「楽しい」に裏打ちされた体力の確実な向上

○学年・学級で取り組む体力向上の推進（共通理解と共通行動）

○学級経営との関連を図った運動の実施

○効果的な運動教室の工夫改善

4. 学年・学級経営の充実

○不登校対策等も含めた組織的な発達支持的生徒指導、特別活動の充実

○互いの報告・連絡・相談・確認を日常化することによる組織的な取組の充実

○個別の保護者の実態を踏まえた上での、気持ちに寄り添った丁寧な指導と保護者対応…担任だけでなく、管理職も含め様々な相談窓口の工夫

○一人で抱え込まず、組織的ないじめの防止等や不登校児童の解消の推進

○カウンセリングマインドを生かした児童・保護者対応…さわやか相談室、子ども相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等相談機関や民生委員児童委員、こども未来課、所沢・南児童相談所等の関係機関と連携強化

5. 笑顔と活気あふれる学校づくり

- コロナ禍での知見も積極的に援用した創意工夫と魅力ある学級・学年づくり
- 発達段階に応じた、笑顔と活気のある「活動の場」の設定
- 児童が自ら楽しむことのできる外遊びのための環境整備
- 計画的な学級レクや学年レクの実施、

6. インクルーシブ教育の充実

- 全職員で全児童を支援する意識と体制の充実…県立学校等との連携の強化
- 特別支援学級と交流学級との連携の充実
- 通常学級に在籍する支援を必要とする児童への支援の充実

7. 道徳教育の充実

- 道徳授業の保護者公開（親子で考える道徳授業の展開）
→年間の授業参観において1回以上取り組む
- 考え、議論する道徳授業の実践
- 道徳的実践力の向上

8. 潤いのある教育環境の創造

- 安全で安心な学校づくり（自分の命も他人の命も大切にする。）
- 互いの個性を認め合い、生かし合える学校づくり
- 仕事は厳しく、職場は明るく、人間関係は温かく
- 子供たちの生き生きとした姿の積極的な情報発信
- 美しく潤いのある教育環境づくり
- 清掃活動の徹底…「清掃は心の鏡」

9. 社会に根差したウェルビーイングの向上

令和4、5年度と年度途中で教職員の欠員が解消できない時期が長期に及ぶ事態を経験した。しかしながらこれは本校のみの一過性の状況ではなく、他校でも同様な状況となっている例が少なくない。加えて埼玉県公立学校教員採用選考試験の出願者数減少にも現れている通り「先生の不足」は深刻化しており、今後も同様な窮状に陥らないという保証はない。長期的に負荷がかかる環境で教育活動を継続するためには、働き方改革を早急に進めなければならない。これまで校内でも「一部の職員に負担が集中している」等の課題が指摘されており、学校運営委員会が校内負担軽減検討委員会として活動し業務改善策を検討するとともに、今後導入が予定されている校務支援システムの活用等も視野に入れながら「みんなで少しずつ負担を分けあう」ための方策を練っていく。これに関連し、令和5年6月16日に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」には次のような記述がある。子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。加えて、職員や支援人材など学校の全ての構成員のウェルビーイングの確保も重要である。こうしたことが学びの土壌や環境を良い状態に保ち、学習者のウェルビーイングを向上する基盤となり、結果として家庭や地域のウェルビーイングにもつながるものとなる。

◎ウェルビーイングが向上する視点

仕事	○仕事の意味や意義を見出せる ○自己の重要性が認識できる ○自分の能力が活かしている ○仕事を通して、成長実感をもつことができる
人	○尊敬できる上司や同僚がいる ○上司や同僚からの学びや刺激が多い ○上司や同僚と快適な人間関係ができている ○上司や同僚とのかかわりが心の安定につながっている
組織	○組織に一体感がある ○教職員一人一人が組織のビジョンを共有している ○教職員一人一人が居場所を実感できる ○自らが組織の一員であることを誇りに思っている
生活	○プライベートにおいて、家族や友達などと温かな交流関係が築けている ○趣味など打ち込めるものがある ○プライベートにおいて学びを得ることができる ○自分らしさを実感できる



朝一小だより

活気があふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年4月8日

児童数 587名



新たな膝折学校が始まります

校長 金子 二郎

今年の4月は菜種梅雨で肌寒い日も多く、桜の花も心なしか遠慮がちに咲いているようにも見えますが、季節は着実に春へ歩みを進めているようです。それぞれに進級した495名と9日に入学する92名の新入生を併せた587名で、朝霞市立朝霞第一小学校の令和6年度が本格的にスタートします。本校校長として3年目となりました金子二郎です。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



お陰様をもちまして、昨年度本校は開校150周年を迎え、今年度まさに新たな船出を迎える4月となりました。社会の変化が加速度を増し予測困難な情勢が続く中、前例踏襲の学校教育ではもはや様々な課題に対処するのが難しくなっています。令和4年度に設置された学校運営協議会も二期目となり、より機動的で機能的な活動が強く期待されています。これまで以上に開かれた学校づくりを進めるとともに、すべての教職員が団結して「考える子」「やさしい子」「たくましい子」を育てまいります。そして開校当初の先達がそうであったように、保護者や地域の皆様のお力添えもいただきくことで、一人一人の子供が笑顔で日々の学校生活を送りながらたくましく自らの手で将来を切り拓きながら社会を支えていく力を身に付けることができるよう、多くの力が結集する新たな膝折学校を目指してまいります。



人類史上の進歩のほとんどは、不可能を受け入れなかった人々によって達成された (ビル・ゲイツ)



朝一小だより

活気があふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年5月1日

児童数 587名



友達という存在が果たす役割

校長 金子 二郎

雨傘の出番もありますがそれでも風薫る五月を迎え、晴れた日には心地よい風がそよぎます。尾上有紀子さんが「風が薫る 空の青さに 深呼吸」と詠んだ通り、爽やかな空気を体全体で味わいたくなります。数えきれない児童の笑顔から、「よしやるぞ」という意気込みも伝わってきます。令和6年度がスタートし一月が経ちましたが、保護者や地域の皆様におかれましてもご健勝のことと拝察いたします。今年度も本校の教育活動に対しご理解とご協力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。



さて、経済学者の西山賢一埼玉大学名誉教授は著書「左右学への招待」の中で、左脳と右脳の分業について、左脳は「言語脳」とされ分析的な判断や論理的思考を得意としているのに対し、右脳は「直観脳」とされ言語以外の情報、空間的、音楽的、情緒的な情報処理に優れていると述べています。ここから久米宏さんが以前ラジオ番組で、例えばデートの時に相手の左脳に届くように座り右耳にささやくのと、左耳にささやくのでは受けとり方も変わってくるのではと話していました。どちらの耳にささやくかはさておき、子供は成長するにつれて友達との間に「二人だけの秘密」をもつようになります。小学校でも高学年、まして中学校に行くようになると、親と一緒に旅行に行きたがらなくなる子も出てきます。中には大切な相談をする時に親よりも友達を選ぶ子供も出てきます。親よりも友達が重要になってくる最大の理由は「秘密の共有」にあるようです。親には言えないことでも友達なら言えることが少なからずできてきます。年相応に体も心も成長するにつれ、親には言えないが友達、特に同性の友達には相談できることが増えてきます。秘密の共有は悩みの共有でもあり、悩んでいることを相談する相手が親よりも友達となるケースが増えてきます。ある意味これは子供の健全な成長の通過点の一つで、秘密の共有が人間関係を濃密にしていけます。秘密の共有が友達をつくることに關していかに重要かということであり、その意味では家庭とはまた異なる場として、さらにオンラインではな



く直接他者に接する場として、学校での生活も重要な意味をもってくるのかも知れません。しぐさや表情をはじめ、五感に訴える情報量は対面の方が格段に増えるだけでなく、相手との距離感など子供が感じ取るものは計り知れません。言葉を交わさなくともただ同じ場所で時間を共有するだけで何かが伝わるということは、大人でも誰もが経験するのではと思います。もちろん子供が誰かとコミュニケーションを持つことで時には傷つく場合もあることは否定できません。そんな時こそ周りの大人が関わることでその経験を大きく成長できるきっかけにできればと思います。家族とはまた違う友達という存在とともに多くを学びあう、そんな学校本来の役割を果たしていかなければならないと改めて感じています。



ひとりに怯え 迷った時 心の奥 灯りに気付く そうかあなたは こんなに側に どんな暗闇だろうと 飛んでいける (藤原基央)